

新潟県南魚沼市の自転車を活用したまちづくり

～ナショナルサイクルルート認定に向けて～

南魚沼市教育委員会 生涯スポーツ課

1. はじめに

南魚沼市は、新潟県南部の魚沼盆地に位置し、魚沼市、十日町市、湯沢町、群馬県利根郡みなかみ町と隣接、太平洋側と日本海側を結ぶ交通の大動脈が集中しています。関越自動車道や上越新幹線などの高速交通によるアクセスは大変便利で、交通及び物流の中継地としての役割を果たしています。

こうしたアクセスの利便性向上に伴い、スキー観光地として観光産業基盤の整備が進むとともに、通勤・通学圏は新潟市近郊はもとより関東圏にまで拡大し、企業の進出だけでなく、国際大学、北里大学保健衛生専門学院などの高等教育機関も立地されています。

地域ブランドとして全国的に高い評価を受けている南魚沼産コシヒカリを中心とした農業の振興や新たな起業への支援と優良企業の誘致をさらに進め、若者が定住し安心して働けるまちづくりを行っています。

四季折々の彩り豊かな自然景観と自然環境に恵まれ、スキーなどのスポーツをはじめ、屋外レクリエーション、グリーンツーリズム、温泉など資源を生かした多彩な交流の拡大により、市の一層の発展・飛躍が期待されています。

【自然・人・産業の和で築く 安心のまち】



人口・世帯数

総人口	54,061人
男性人口	26,467人
女性人口	27,594人
世帯数	20,112世帯
(令和4年7月末現在)	

2. これまでの取組み

南魚沼市では、平成 24 年度から南魚沼市スポーツ推進計画を策定し、スポーツを取り巻く社会情勢と本市の実情に即した取組を進め、次代を担う青少年が他者との協働と規律を学びつつ育成され、地域に深い絆が存在し、健康な長寿を享受できる社会、スポーツを通じてすべての市民が幸福で豊かな生活を営むことができる社会を目指しています。

そして、市民一人ひとりが自らの健康の維持増進に関心を持ち、スポーツを通じて健やかな心と体をつくるために日常的にスポーツに親しむことが重要と考え、スポーツと適正な予防医療を組み合わせることにより、いきいきとした生活を実践する契機となることを目的として、平成 27 年 10 月 1 日、スポーツ庁の発足に合わせて『南魚沼市スポーツ健康都市宣言』を行いました。

【南魚沼市スポーツ健康都市宣言】

私たち南魚沼市民は、すべての市民がスポーツに親しみながら、健診などの保健活動とバランスのとれた食生活を送ることで自らの健康づくりの機会とし、生涯にわたって健康で文化的な生活を送ることを目指します。

また、スポーツをはじめあらゆる機会をとおして得た仲間とともに『人の輪で支えあう安心のまち』で健やかな心と体をつくるため、ここに南魚沼市を「スポーツ健康都市」とすることを宣言します。

そうした中、国では、自転車の利用を増進し、交通における自動車への依存の程度を低減することによって、公共の利益の増進に資すること等を基本理念とする「自転車活用推進法」が平成 29 年 5 月に施行され、この基本理念に加え、我が国の自転車の活用の推進に関して基本となる「自転車活用推進計画」が平成 30 年 6 月に閣議決定しました。また、新潟県では、令和 3 年 3 月に「新潟県自転車活用推進計画」が策定され、県全体として自転車活用を推進する方針を示しました。

これらの国、県の動向を踏まえ、自転車交通を意識した人と環境にやさしいまちづくりの推進、自転車を利用したスポーツの推進や健康寿命の延伸、地域の魅力を体感できるサイクルツーリズムの促進、自転車に関する安全・安心の確保等、自転車の活用を総合的かつ計画的に推進することを目的として、令和 3 年 6 月、「南魚沼市自転車活用推進計画」を定めました。

3. 自転車を活用した地域活性化に向けて

南魚沼市では、平成 21 年トキメきにいがた国体でのロードレースを皮切りに、平成 24 年のインターハイロードレース、平成 26 年からスタートした「南魚沼サイクルフェスタ」等の自転車に関する取組を継続的に行っています。また、平成 30 年に加盟した全国組織「自転車活用推進したまちづくりを推進する全国市区町村長の会」との連携も継続し、積極的な情報交換を行っており、令和 3 年度から市長が同組織の北信越ブロック長に就任しております。



【JBCF 南魚沼クリテリウム】



【JBCF 南魚沼ロードレース】



【南魚沼グルメライド】

自転車は環境にやさしい交通手段であるだけでなく、サイクリングを通じた健康づくりやレクリエーション等の余暇の充実、友人や家族、地域におけるコミュニケーションを広げ、老若男女が生活の中に取り入れられるツールとして捉え、サイクルスポーツの振興による健康長寿社会の実現と、サイクルツーリズムの推進による交流人口の拡大に加え、自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成により、安心安全な住みやすいまちづくりのツールとして期待しています。

そして、自転車活用の取組を継続して進めるためには、関係機関と調整を図るとともに、計画に沿って主体的に事業を進める組織の設立や、関連する民間団体及び事業者等の活動支援など、基盤づくりを進める必要があると考え、行政、民間団体、事業者、市民の力を集結し、自転車を軸にスポーツの力と地域資源の活用による地域活性化に挑戦する官民連携組織として、「RIDE ON 南魚沼プロジェクト実行委員会」を令和元年10月に設立しました。

また、自転車活用の推進を効果的かつ効率的に進めるためには、国が取り組むナショナルサイクルルートの認定も視野に、魚沼地域に点在する地域資源を自転車で結ぶモデルルートの形成や、官民連携による地域全体でのプロモーション活動など、広域連携によるスケールメリットを活かした自転車施策の展開が必要となると考え、南魚沼市を中心市とした「魚沼地域定住自立圏」の構成市町である湯沢町及び魚沼市をはじめ、道路管理者や自転車に関連する市民団体等で構成する広域連携組織として、「湯沢町・南魚沼市・魚沼市連携自転車活用推進協議会」を令和3年3月に設立し、2市1町の範囲をもって連携しながら自転車施策を推進しています。



【RIDE ON 南魚沼プロジェクトのPRロゴ】



【設立総会の様子】

左から湯沢町長、南魚沼市長、魚沼市長

【湯沢町・南魚沼市・魚沼市連携自転車活用推進協議会】

目的：走行環境整備、受入環境整備、情報発信を実施

構成員：観光団体、自転車団体、警察、国、県、市、町等

4. 今後の展開～ナショナルサイクルルート^{※1}認定に向けての取組

南魚沼市では、令和3年8月24日に「湯沢町・南魚沼市・魚沼市連携自転車活用推進協議会」において、新潟県で初となる、サイクルツーリズムの推進モデルルート^{※2}「雪国魚沼 Golden Cycle Route（ゴールデンサイクルルート）」を設定しました。



【JBCF クリテリウムにて公表】

また、首都圏からのアクセスの良さと、雪国特有の自然環境や食文化をいかしたサイクルツーリズムを推進し、広域連携による以下の自転車施策を展開しています。

(1) 快適で安全安心にサイクリングができる環境の整備

ア 自転車走行空間の整備

- ・ 地域資源を活用した3ルートを設定
- ・ 雪国特有の幅広な路肩を活用した走行環境整備

(2) 統一のロゴマークによるルート案内看板等の整備

ア 令和3年度にロゴマークを制作



ロゴデザインは、シンプルなデザインを心掛け、三つの丸は雪の結晶と山並みを表現し、無限マークは自転車の車輪とサイクルルートを表現しています。

ルート名のデザインは、遠くからでも分かりやすいよう、Golden Cycle Route の頭文字を取り、「GCR (ジーシーアール)」で表現しています。

イ ルート上に案内看板を整備



【既存の観光看板を活用（改修）。

上部にロゴマーク。下部に位置図。】

「雪国魚沼 Golden Cycle Route（ゴールデンサイクルルート）」は、湯沢町、南魚沼市、魚沼市を結ぶ全長約 185 キロの広域サイクリングルートです。

雪国ならではの四季の移ろいに富んだ自然はもちろんのこと、地域に点在する雪国の優れた文化や風土を感じることができる魅力的なコースとなっております。

今後も引き続き、ナショナルサイクルルートの指定を目指し、サイクリストが安全で快適にサイクリングを楽しめる走行環境及び受入環境整備に取り組んでいきます。

※1 ナショナルサイクルルートとは、サイクルツーリズムの推進を国内外に PR するため、ソフト・ハード両面から一定の水準を満たすルートを、世界に誇りうるサイクリングルートとして国が指定するものです。

※2 サイクルツーリズムの推進モデルルートとは、先進的なサイクリング環境の整備を目指すサイクリングルートとして、官民連携による協議会で設定され、市町村をまたぐような骨格となる基幹ルートです。